



岸川中だより

川口市立岸川中学校
川口市安行領根岸374番地の1
TEL268-4506 FAX268-4761
特別支援学級 TEL268-7110
さわやか相談室TEL268-4510
<https://kishikawa.official.jp>

「深まる」

校長 三浦 伸之

11月に入りめっきり秋らしくなりました。と言いたいところですが、11月7日に立冬も過ぎ、暦の上ではもう冬なのですよね。とはいえそのような中でも、スーパーには栗やサツマイモが並び、コンビニのスイーツもそれらを使った商品が主力となっていて秋らしくなっています。また、紅葉もようやく始まったようで、メディアでも取り上げられていました。少しずつですが、季節が進んでいることを感じます。本校の進修館の裏にも秋の味覚の柿の木があります。先日、校務員さんが柿の実を採って下さり、それをいただきました。校務員さんに柿の種類を聞いたところ、富有柿とのことでした。甘くて美味しかったです。秋は深まっていますね。この秋が深まるという言葉。私は大好きなのですが、考えてみると春・夏・冬には使われませんよね。なぜ、秋だけ深まるというのでしょうか。そこでちょっと調べてみました。AIによると、「秋が深まるという表現が定着したのは、秋が他の季節と比べて変化が大きく、時間の経過を感じられる季節だからと考えられます。」と出てきました。変化が大きい？確かに夏や冬はあまり変化がないかもしれませんが、春はそれなりに変化があるのでは？何かしっくりこなかったのもう少し調べてみると、タレントの「ふかわ りょう」さんと言語学者の「川添 愛」さんがこのことについて対談している記事があり、面白かったのでご紹介します。ふかわさんが「秋の気配」とは言うけど「夏の気配」とは言わない。松田聖子の「夏の扉」はあるけど、「冬の扉はない」というコメントに対し川添さんが、「確かに冬の扉はあまり開けたくはないですね。例えば秋って、冬に向かってどんどん沈んでいくイメージがありますよね。『暑い』から『寒い』、『明るい』から『暗い』へ下がっていく感覚。だからこそ「深まる」なのかもしれません。これに対して冬はすでに底なので、『深まる』要素はないんですよ。」この言葉に、個人的には「なるほど～」と共感してしまいました。「秋が深まる」風情があって素敵な言い回しですよ。

さて、本校では今、12月7日(土)に開催される合唱コンクールに向けて、練習が始まっています。私も岸川中学校では初めての合唱コンで、生徒たちがどのような歌声を聴かせてくれるのかをとても楽しみにしています。合唱とは「多くの人が、いくつかの声部に分かれ、各声部の声が互いに和声をなしながら、全体で一曲をなすように歌うこと。」となっています。この「各声部の声を互いに和声にする。」というところが合唱のポイントですが、これがプロではない、しかも声はまだ出来上がっていない中学生にはなかなか難しい。ここで良い合唱になるための校長ワンポイントアドバイスです。①声＝大きな声より響く声。女声の低音が地声になる、男声の高音が「がなる」ような声になることのないようにしましょう。又、響く声を作るには口の開け方も重要です。変な顔になることを恐れず、動画などで歌う表情を研究してみてください。②強弱＝フォルテは強い、ピアノは弱いと教わりますが、強さ弱さにも色々あります。歌詞をよく読み込んで、その内容にあった強弱にしましょう。③歌詞を大切に＝歌詞をまずは朗読してみてください。その時に大切に読む部分は歌っても同じです。④休符も大切に＝休みも大切な音楽の一部です。休符の取り方一つで緊張感や切なさを表現できます。どんな休符を取ると曲の雰囲気が出るのか研究しましょう。⑤これが一番大切です。本番までのプロセスを大切に、クラスの絆を第一に全員で力を合わせましょう。心を合わせ、クラスの絆を「深める」ことがよい合唱への最大の近道です。え？5つもあってワンポイントではない？すみません・・・。

令和5年度全国健康づくり推進学校最優秀校を受賞しました

令和6年度学校保健文部科学大臣賞を受賞しました

2024 Kishikawa.J.H.S 51st